



子ども大学学生新聞

第3号

子ども大学

かわごえ新聞部

戦争はなぜ起きるのだろうか

酒井一郎先生「太平洋戦争を振り返る」

二月十六日、東洋大学512教室で酒井一郎先生の「太平洋戦争とは何だったのか?」という授業が行われました。参加者は四年生三十五人、五年生三十七人、六年生三十一人、合計一〇三人。保護者四十三人、兄弟七人が参観しました。

「歴史とは過去と現代の対話」

一時間目の授業では、まずはじめにE・H・カーというイギリスの歴史



(長坂星名記者写す)

なぜ太平洋戦争が起きたのか

二時間目は、本題の太平洋戦争についての説明がありました。太平洋戦争が始まる前には、日露戦争や満州事変があったそうです。

なぜ、日本は太平洋戦争を起こしてしまったのでしょうか? 日本の海軍がインドシナに進出しました。それを問題にしたアメリカが「日本は占領地帯から出て行け。そうしないと日本に石油を供給しないよ」と言ってきました。日本はそ

れをことわりしました。そして戦争がはじまったのです。
三つの決戦で敗れる
しかし、戦争直前の日本とアメリカとの戦う能力を比べると、表のように、明らかに日本のほうが下でした。

軍事力	日本	米国
飛行機	1	4
戦車	1	6
軍艦	1	3

開戦はハワイの真珠湾攻撃(しんじゅわんこうげき)から始まりました。この戦争には三つの決戦があったそうです。
一つ目はミッドウェー海戦です。この海戦は1942年6月5日におこり、情報軽視(じょうほうけいし)と油断(ゆだん)で完全に敗れたのです。
二つ目はインパール作戦です。この作戦は1944年3月〜7月におこり、牟田口廉也司令官の暴走により、何万人もの死者がでました。しかし、戦争が終わったあとも、牟田口廉也司令官は罪をつぐなうこととはなかつたそうです。
三つ目が沖繩戦です。この戦いは1945年3月〜6月におこり、大勢の民間人が犠牲になりました。このような太平洋戦争の犠牲者数は、日本だけで、軍人二百三十万人、民間人八十万人にも達するそうです。

尖閣諸島問題も学ぶ

また、最近の尖閣諸島(せんかくしよとう)問題のことについても、お話がありました。「尖閣諸島問題は、法律問題ではなく外交合戦です」とおっしゃっていました。先生は、中国は「尖閣諸島は自分のものです」とアピールしているのに、日本は「法律的に日本のものです」としか言っていないので、もっと「尖閣諸島は日本のものです」とアピールしたほうが良いといっていました。

今回の授業は、とても分かりやすく、先祖のことがわかりやすかったです。また、太平洋戦争について、さまざまな知識を得られたと思います。そして、戦争の怖さを、改めて、学ぶことが出来ました。(川村弘希記者〓中央小学校四年、森千賀子記者〓浦和別所小学校六年)

先生に突撃インタビュー

今回は酒井理事長に子ども大学かわごえの理事長として、そして先生としての感想を聞きました。

Q まず、先生として、授業をしての感想をお願いします。

A この授業は小学生にはわからないかと思っていました。だからなるべくわかりやすくしようとして大変でした。

Q 授業を通して学生に一番伝えたいことは何ですか。

A みんな発言を下さい。私は何回か発言の時間を与えたが、みんな何も言わず、授業が終わってから質問に來たりする。発言をするという事は、リーダーシップを取れることでもあるから、ちゃんと発言しよう。

Q つぎに理事長として感想お願いします。
A 最近は寒いけど、みんなよく来てくれた。寒いと風邪を引くから、夏に比べたら出席者は少ないね。

A 尊敬している人は誰ですか。
Q いるけど、もう死んじゃった、それは私のお母さん。そのほかにもいるけれど、一人には絞れないなあ。

授業を聞いて

☆学生の感想
武田琉太郎(たけだ・りゅうたろう) 君II霞ヶ関北小学校四年

Q 今回の授業はどうでしたか?
A すこしむずかしかったけど太平洋戦争のことが分かりました。(川村弘希記者)

管原野乃花(すがわら・ののか)さんII新宿小学校
Q 今日の授業はどうでしたか?
A 微妙だった。
Q 具体的にはどういうことですか?
A 少し難しかった。

福岡 礁(ふくおか・しょう)君II

新宿小学校
Q 今日の授業はどうでしたか?
A 少し難しかった。でも歴史について学べてよかった。

Q 今日の大塚小学校
Q 今日の授業はどうでしたか?
A おもしろかった。
Q 具体的にどのところですか?
A 三つの戦争のところ。

Q 今日の大塚小学校
Q 今日の授業はどうでしたか?
A おもしろかった。
Q 分かりやすかったですか?
A ためになった。

Q 今日の大塚小学校
Q 今日の授業はどうでしたか?
A 印象に残ったことは?
Q せんかくもんだいの話です。(森千賀子記者)

飯塚理桜(いづか・りお)さんII 鶴ヶ島市立藤小学校五年
「今日の授業で、戦争することは、とても大変なことがわかりました。ぎせいしゃもでて、民間人までなくなってしまうことは、つらいです」
(土田真由香記者II山田小学校五年)

石井 葵(いしい・あおい)さんII 霞ヶ関南小学校五年
「犠牲者の人数が多く、やっぱり戦争はしてはいけないことを、あらためて思いました」
(小島未来記者II福原小学校四年)

鈴木くん「自分の好きな時代で、なるほどな」と思った」
(長坂星名記者)

☆記者の感想
小島未来記者「大人になっても、戦争はぜつたないといいなと思いました。なぜなら戦争で多くの人がなくなつて、すごくかわいそうだと思つたからです」
土田真由香記者「戦争はとてもやつてはいけないと思うけど、戦争やあらそいがあったから、いまの和な世界があるのかなと思います」

☆保護者の感想
A 授業で印象に残ったところは?
遠藤幸次さん(会社員)「太平洋戦争をとらえていたことです」
森田由美さん(食堂のお手伝いさん)「軍かんの名前」
A 授業を聞いて良かったところは?
佐々木展人さん(ふくしかんけいの仕事)「昔、学校で習ったじゆ業を思い出させてもらったことです」

ローラシューズの登校はやめよう

子ども大学かわごえという楽しく勉強する場所で、最近、ローラシューズをはいてくる人が目につきます。そこでローラシューズの危険性について、お伝えします。

最近、スーパーや駅などでも『ローラシューズで店内を走らないで下さい』と、はり紙してあるのを見かけますが、それは、「くぼみにローラーがはまつて転倒し、

左手首を骨折した」「ローラシューズですべつてきた子をよけようとしてころび、ひじの近くを骨折した」といった事故がおきています。 (国民生活センターの資料より)

ローラシューズの取扱説明書には、①公共施設や店、駅など、人の多いところでは使用禁止、②ヘルメットやプロテクターなどの安全装具(そうぐ)を身につけること、と注意書があります。

しかし先日、ローラシューズをはいてきている学生にインタビューをしたところ、「そんなこと知らないし、親からも注意されていない」といっていました。
このような事故が起こらないよう、マナーを守り、より良い子ども大学かわごえになるように心がけていきましょう。(長坂星名記者)



(イラスト・土田真由香記者)